

シンポジウムには久留米大学の学生さんをはじめ、若い人の参加も見られました。心強いですね



基調講演をいただいた徳島大学大学院教授の石田啓祐先生にはコーディネーターも務めていただきました。長良川での川遊びの楽しさを語るうち、ご自身のお子さん達が「僕もアメゴ釣りがしたい」と四国へ山村留学することになったとか。「これも次代育成かな？」と笑顔で話してくれました

平成24年に兄弟縁組を締結して以来、日本三大暴れ川の兄弟として交流している利根川、筑後川、吉野川。互いの理解と友好を深めようと、東みよし町でシンポジウムを開催しました。それぞれの流域の水文化や川の魅力を、どのように次代を担う子ども達に伝えていくか、活発な意見交換が行われました。

名勝・美濃田の淵のほとりで 三大河川シンポジウムを開催



坂東太郎 利根川



千葉県柏市役所
土木部長 君島 正一さん



千葉県柏市役所
農政課 松下 尚樹さん



利根川流域交流会
事務局 吉田 正彦さん

後半は石田啓祐さんをコーディネーターに迎えて、三河川の代表者によるパネルディスカッションを行いました。まず長男・利根川からは千葉県柏市にある手賀沼の環境保全の取り組み、そして、農業を主体とした観光・レクリエーションの振興について発表。「手賀沼周辺を都市と農村の交流のモデル地域とし

※ ※ ※

まず、作文「吉野川と私」応募者に記念品を贈呈(↓P3)。続いて、石田啓祐さん(徳島大学大学院教授)による基調講演「大歩危・小歩危」吉野川の流路と四国山地の生い立ちが行われました。大歩危は三波川結晶片岩、いわゆる「阿波の青石」が多く見られますが、この特異な岩石の分布から、四国山地や吉野川の成り立ちなどをわかりやすく解説。大歩危・小歩危の深いV字谷や、岩石の特異な景観がどのように形づくられたかなど、特に地元・吉野川チームは興味津々で聞いていました。

長さ2km、幅100mにわたって奇岩・怪岩が連なる吉野川中流きつての名勝・美濃田の淵。その美濃田の淵や吉野川の流れを眺望できる吉野川ハイウェイオアシスに8月27日(土)、120人が集結し、「日本三大河川シンポジウム2016」が開催されました。平成27年の吉野川市に続いて2回目の開催となる今回は、「川の魅力を次世代の子ども達に伝えよう」がテーマ。三河川の代表者が活発な意見交換を行いました。

筑紫次郎 筑後川

て、施設やイベントの充実を進めています」と松下尚樹さん。続いて、筑後川流域連携倶楽部理事長の駄田井正さんが、流域全体が屋根のないひとつの博物館であることから「まると博物館」、流域の観光資源を生かしたIIのゾーンで楽しんでもらう「まるとりパーク」、筑後川ブランド作りやアンテナショップの設置など、学び・遊び・仕事を一体化させた取り組みについて発表しました。



NPO法人 筑後川流域連携倶楽部
理事長 駄田井 正さん



筑後川まると博物館
運営委員会 鍋田 康成さん



筑後川まると博物館
運営委員会 阿部 展明さん